

## 会 告

代表理事 梅 田 章

3月17日の臨時総会により、一般社団法人慣性センサ応用技術研究協会は解散することになりました。その直接的原因は、代表理事の病気（骨髄関連の血液疾患）です。主治医から体が動くうちに終活をしておくように言われております。2月17日の運営委員会で代表の交代を図りましたが、他にも病人が二名おり、現役は超多忙ということで、候補者はおりませんでした。

そこで、個人会員の意向を伺うために臨時総会を開催しました。個人会員は、六名が委任状提出、出席は二名でした。代表者を申し出る方はなく、複数名で分担してというような話も出ず、結局「解散やむなし」という結論となったのです。

NPO法人から一般社団法人への移行の際にその重要性を主張された方の多くは、退会されました。令和五年度には約20名が年会費を支払ったのですが、令和六年度にはわずか9名が会費を納めました。

毎年実施されてきたセミナーの参加人数も著しく減少してきましたし、見学会、展示会、年一回の例会講演会、討論主体の講演会、国際討論会、懇親会などの催しも最盛期に比較しますと近年は著しく減ってきました。活動が低下したことは認めざるを得ない事実です。

YDK テクノロジーズ株様にはNPO時代より一貫して、また、曙ブレーキ株様、株村田製作所様には短期間ではありましたが企業会員となっただきました。NPO設立時には日立電線株様より大きなご援助をいただきました。とはいえ、その後の活動を通じて、慣性センサで事業をするならばまず当協会の会員にならなければ、という共通認識が産業界に確立できなかったことはまことに残念ですし、力が足りなかったと思います。

しかし、慣性センサの技術が現状のままで継続するとは思えません。標準が不明確、評価方法が基礎から乖離したまま、多軸慣性センサの性能評価規格が皆無では、性能向上は到底望めないからです。慣性センサ業界の若い方が、当協会で得た知識を思い出して奮闘されることを期待するほかはありません。

なお、IEC/SC47Eで実施してきた半導体加速度計の国際規格作成は協会とは無関係ですから、継続されます。技術的内容は、セミナーの内容と矛盾致しません。この規格に興味をお持ちの方は、梅田までご連絡ください。電話番号は変わらず、メールアドレスは7月18日まで有効です。